

南風見林木遺伝資源保存林区域の取扱いについて

南風見林木遺伝資源保存林（下記参照）はリュウキュウマツの遺伝資源保存を目的として平成4年度に設定された保護林であるが、平成24年度より廃止とし、西表島森林生態系保護地域の保全利用地区に取り込まれることとなる。

当保護林では、保護林設定の目的に従い、リュウキュウマツとその生育環境を保全するため、これまでアダンや広葉樹等の除伐、区域の刈り払い等を毎年実施しており、リュウキュウマツの林分が比較的良好な状態で維持されてきている。また今後は当区域におけるリュウキュウマツの林分を森林環境教育等への利用に供することも予定しているほか、森林総合研究所九州育種場においては、数年に一度、リュウキュウマツの種子採取のために当保護林区域を利用することも見込まれる。

西表島森林生態系保護地域の保全利用地区においてリュウキュウマツの遺伝資源保存のための除伐等及び森林環境教育等を実施することについては同計画の管理・利用に関する基本的事項に沿うものであることから、今後も当区域においてはこれまでと同様の取扱いを行っていくこととする。

南風見林木遺伝資源保存林概要

保存対象樹種：リュウキュウマツ

設定年度：平成4年

所 在：沖縄県八重山郡竹富町 南風見国有林172と1林小班

面積：25.18ha

林 種：天然林

林 齢：110年生

法的規制等：防風保安林

施業方法：リュウキュウマツを保存するための除間伐はできるものとする



平成22年度の除伐実施状況

No./林小班/面積/地形/地質・土壌		施業方法/林種/林相/林齢		
プロット 19 172-と1 林小班 10m × 10m × 5 = 500m ² 標高 50m 方位 S 傾斜 4° 山腹平衡 古第三紀砂岩・乾性黄色土(Yc)		天然林施業 天然林 リュウキュウマツ群落 110 年生		
林分構造/主要樹種				
高木層	樹高: 10~18m リュウキュウマツ(30) 17.6~38.3 cm 平均 23.3 cm タブノキ(3)			
亜高木層	樹高: 3~9m DBH 5~15 cm リュウキュウマツ(13) ショウベンノキ(3) クチナシ(1) タブノキ(12) ハゼノキ(4) タイワンヤマツツジ(1)			
低木層	優占種: アダン アダン クチナシ ハゼノキ ハゼノキ アカメガシワ トウズルモドキ シラタマカズラ トベラ ポチョウジ ショウベンノキ			
草本層	優占種: アダン、ササクサ アカメガシワ ヤンバルセンニンソウ ハゼノキ ヤンバルタマシダ ポチョウジ コバノハスノハカズラ イリオモテシャミセンズル ヤンバルタマシダ ゲットウ シラタマカズラ アダン ススキ タブノキ エダウチチジミザサ ヘクソカズラ オオシマコバンノキ ササクサ			
林況	サトウキビ畑に面しており、台風の被害を受けて、枝折れや幹折れなど枯損しているリュウキュウマツの立木が多い。林床にはツルアダンが繁茂しており、ツルアダン以外の構成種も少ない。リュウキュウマツの稚樹・幼樹は見られない。			



No./林小班/面積/地形/地質・土壌		施業方法/林種/林相/林齢	
プロット 20 172-と1 林小班 10m × 10m × 5 = 500m ² 標高 60m 方位 S 傾斜 5° 山腹平衡 古第三紀砂岩・乾性黄色土(Yc)		天然林施業 天然林 リュウキュウマツ群落 110 年生	
林分構造/主要樹種(本数)			
高木層	樹高: 10~20m リュウキュウマツ(32) DBH 14.6~48.3 cm 平均 28.1 cm タブノキ(9) エゴノキ(4)		
亜高木層	樹高: 2~9m DBH 5~15 cm ホソバタブ(1) アデク(1) リュウキュウガキ(1) ヤマモモ(2) ハゼノキ エゴノキ(5) タブノキ(14) ホルトノキ(1) ショウベンノキ(1) フカノキ(4) カキバカンコノキ(1)		
低木層	優占種: ショウベンノキ、クロツグ ボチョウジ クロツグ フクマンギ ショウベンノキ ハゼノキ トウズルモドキ タブノキ オオバギ カラスザンショウ アカメガシワ エゴノキ ヤンバルアワブキ アワダン ヤンバルアカメガシワ リュウキュウガキ アカハダノキ		
草本層	優占種: エダウチチジミザサ エダウチチジミザサ クロツグ フクマンギ ボチョウジ カラスキバサンキライ クワズイモ ゲットウ ウラジロエノキ ヤエヤマツツジ シラタマカズラ イヌビワ アカハダノキ ササクサ コンロンカ タイワンクジャクシダ トウズルモドキ ツゲモチ ショウベンノキ シャリンバイ ナガバカニクサ ヤブラン センリョウ		
林況	リュウキュウマツの生育は良好である。一部には倒木も見られるが、特に、マツ林分としての衰退傾向は見られない。林床には広葉樹や草本類が繁茂しており、リュウキュウマツの稚樹・幼樹は見られない。		

